

令和元年度 研究の概要

1 研究主題

学習を通して児童生徒の自信を育てる
～授業設計シートを活用した授業改善～

2 研究主題設定の理由

本校では昨年度までの2年間で、児童生徒の学びの特性を生かす支援や未学習に対応した指導の研究を進めてきた。教師の視点からの検証では、児童生徒の学習に対する意欲や興味の高まりを捉えることができた。しかし、児童生徒の自己評価で、学習に対する意欲や興味が高まったと答えた児童生徒の割合は、57%（小学部 68%、中学部 33%、高等部 57%）だった。学びの特性を生かした支援と未学習に対応した指導は、児童生徒から意欲や興味を引き出すことにつながるが、自己の成長に気付きにくい特徴への教師の支援に課題が残った。また、授業づくりに関する課題として、授業構成の工夫や必然性のある課題・主発問の設定、あらわれに対する評価の仕方などが挙げられた。

そこで今年度は、総合教育センターが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて提案している授業設計シート（小・中・高では授業設計アイデアシート、訪問教育では授業設計シート。以下、どちらも授業設計シートと記す。）を活用し、授業設計診断の4項目（「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」）を意識した授業づくりを行い、児童生徒から主体的に表出する姿や行動する姿を引き出したい。それにより、児童生徒が自己肯定感を高め、本校の目指す児童生徒像にある「自信がもてる人」につながると考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

授業設計シートを活用した授業改善を行い、学習を通して児童生徒の自信を育てる授業を目指す。

4 研究の仮説

授業設計シートを活用し、児童生徒が解決したくなるような学習課題や主発問を設定したり、評価規準の達成に向けた活動や支援を用意したりすることで、児童生徒から主体的に表出する姿や行動する姿を引き出せるのではないかと考えられている。

5 各学部の研究テーマと研究の窓口

学部	研究主題	研究の窓口
小学部	自ら取り組み、表現する姿を目指した授業づくり	教科学習
中学部	生徒が自分に合った方法で思考する姿を目指した授業づくり	教科学習
高等部	生徒の自信や意欲を育てる授業づくり	教科学習
訪問教育	学ぶ意欲を育む授業づくり	自立活動

6 研究の内容

3ヵ年計画で、授業設計診断の4項目（「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」）を意識した授業づくりの研究を行う。各学部で評価の視点を明確にして授業の実践と検証を行い、成果と課題を整理する。

総合教育センターが示す4項目の意味と目指すものや姿は、表1の通りである。

項目	○意味 ・ 目指すものや姿
解決したい 課題や問い	○授業者が設計する課題や問い (子どもにとって) ・ 解決したくなるもの ・ 解決に対話が必要なもの ・ 課題や問いに対する活動が焦点化されているもの ・ 深い学びに向かうもの
考えるための 材料	○授業者が事前に準備する資料、道具、教材等 (子どもにとって) ・ 複数の視点や立場から考えるためのもの ・ 比較、統合することで深い解決策や答えにつながるもの
対話と思考	○授業者が設計する対話・思考活動 (子どもにとって) ・ 考える時間が十分に確保されているもの ・ 解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされているもの
学習の成果	○授業者が期待する学習成果 (子どもが) ・ 学んだことを自分の言葉で表現できる ・ 知識・技能の活用範囲を実社会や実生活まで広げている ・ 自ら振り返り、自己の成長を把握している ・ 新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びにつなげている

表1 授業設計の観点

研究の1年目である今年度は、「解決したい課題や問い」と「学習の成果」に重点を置いて取り組む。2年目では、「考えるための材料」「対話と思考」に重点を置き、3年目には、研究のまとめの年として、4つの項目のポイントが押さえられた授業を作ることを目指す。

7 研究の方法

(1) 児童生徒の実態把握

ア 発達検査の結果を参考にしたり、アンケートやチェックシート、MEPA-II Rなどのアセスメントを行ったりして、児童生徒の実態把握をする。

イ 自立活動課の事例検討研修で児童生徒の実態と効果的な支援を共有し、授業づくりに生かす。

(2) 授業改善の手順

- ア 授業設計シートを使い、事前検討を行う。
- イ 教科部会等を通して各教科の学習指導要領を再確認し、身に付けさせたい力を理解する。
- ウ 授業設計シートで4項目を押さえた上で、指導案を作成する。
- エ 一人一授業研究を実施する。
- オ 事後研修を行い、4項目の視点から授業を検証する。

(3) 職員研修

- ア 校内研修として、第1回全体研修において、授業設計の4項目の理解を深め、授業づくりについて学ぶ時間を設ける。
- イ 校外研修として、浜松市スーパーティーチャー授業公開や総合教育センターの授業づくりに関する研修会に参加し、教科部会において伝達研修を行い、共有する。

8 「自信」「主体的」の定義について

本研究において、「自信がもてる姿」とは、「主体的な表出・行動」（学校経営計画〈めざす児童生徒像〉より）が見られる姿だと考えている。

「主体的な姿」とは、本校の小学部・中学部・高等部の児童生徒においては、授業の中で「自分の力で思考する姿」、訪問教育の児童生徒においては、「働きかけに対して豊かに表出する姿」と捉え、そのような姿を目指して授業改善を進めていく。

9 研究計画

時期	内容
4月～5月	・全体研究テーマの検討、学部研究テーマの検討 ・第1回研修推進委員会（4/18） ・第1回全体研修会（5/14）
6月～8月	・一人一授業開始（～12月） 《小》《中》定期訪問及び中心授業研究会（7/8） ・第2回研修推進委員会（中間評価）
9月～12月	《高》中心授業研修会（9月） 助言者：静岡大学 石川慶和 准教授 《訪》中心授業研修会（11月） 助言者：浜松学院大学 柘植美文 講師
1～2月	・学部研究成果の確認、研究集録作成 ・第3回研修推進委員会（研修集録について） ・第2回全体研修会（2月） ・第4回研修推進委員会（来年度の研修について）

